

令和6年度第1回防災プロジェクト会議

日 時	令和6年9月20日（金） 午後2:00～午後4:00
場 所	アミューあつぎ6階 606
出席者	民生委員・児童委員、防災関係者、あつぎ災害ボランティアネットワーク、 厚木市社会福祉協議会、(特非) ゆうかり 障害者地域活動支援センターレザミ工芸 (株) BISSUSS 生活介護 ajito、(社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム 厚木市危機管理課、障がい福祉課、厚木市障がい者基幹相談支援センター (敬称略)

1. 開会

総合司会 厚木市障がい者基幹相談支援センター

- ・資料確認（次第、名簿、事業計画、防災対策チェックリスト修正案、啓発チラシ、神奈川県工科大学の研修会アンケート、事業所連絡会共催研修アンケート、防災グッズの案内）
- ・挨拶（委員の自己紹介）
- ・本年度の取り組み内容（事業計画）

議事進行 （社福）すぎな会 すぎな会生活ホーム

2. 議題

(1) 厚木市の地域防災訓練の現状について（厚木市危機管理課）

厚木市の地域防災訓練は、自治会単位で行っている。9月1日の防災訓練は、今年は台風の影響で中止になった。既に終わった自治会とこれから行われる自治会がある。各自治会で行われる防災訓練については、危機管理課の方に計画を提出していただき、実施後も報告を提出していただくことになっている。

訓練内容では、それぞれ、一時避難所（神社の境内、公園等）に集まって、そこから指定避難所に行く避難誘導ルートの訓練を行っているところが多い。それと水消火器訓練、公園ベンチのかまどベンチ、トイレベンチの組み立てと点検、使用方法の確認、防災倉庫の備品（食料品保存状況、発電機の使用確認）の点検を行っているようである。また、一部の地域では、三角巾を使った止血や頭部怪我の手当ての仕方、腕のつり方、足の捻挫の固定の方法等の訓練も行っているようである。

マンション一つで大きな自治会というところがあり、毛布と竹で担架を作り、その担架を使って、上階から怪我人をおろす訓練をしているところもあった。その様な訓練を各地域で行っている様である。

質疑応答・意見交換

Q.

9月1日は大雨で休止の連絡が入り、私の自治会は地域防災訓練を行わなかったが、214自治会のうち、実施したのは、何%くらいあるのか。（防災関係者）

A.

そこまでは、調査できていない。実際行ったところの報告が上がってきて、行った、行わないがわかる。（危機管理課）

Q.

私の自治会は、10月20日に延期した。ビスケットの賞味期限が、9月末である。実際に訓練を行う場合、配布しても良い物か。事前にボランティアで集まった時に配布したらどうだろうか。（防災関係者）

A.

必ず、防災訓練の時に使ってくださいというわけではないので、9月中に公民館のイベント等で配布しても構わない。（危機管理課）

Q.

自治会の防災訓練に、障がい者、要配慮者がどのくらい参加をしているのかわかるようになっていたのか。（厚木市障がい者基幹相談支援センター）

A.

報告の中で、参加人数の確認はしていないが、車椅子で来られた方とか見た目杖をついておられる等、来たか来ないかというところの確認は、お願いしている。（危機管理課）

- ・ 私の自治会は、グループホームが点在している。長年住んでいる人はわかる。世話人と出てくるので、人数は捉えている。(防災関係者)
- ・ 上依知小学校も10月20日に地域防災訓練を延期した。障がい者が何名くるかは今のところはわからない。前年度は、何名か来っていたが、今回は、チェックリストを作成して回ったので、チェックをしたい。(民生委員・児童委員)

Q.

依知は、グループホームはあるのか。(防災関係者)

A.

障がいのグループホームは少ない。(民生委員・児童委員)

(2) 厚木市社会福祉協議会宮田会長からの助言 (厚木市障がい者基幹相談支援センター)

6月4日に、厚木市社会福祉協議会の会長にお声かけさせていただいて、障がいのある方が地域と繋がるためにはどのようにしたら良いか、話を伺った。

もともと会長は、学校の教師で、阪神淡路の大震災の時に現地に行った。ご自身が大学1年の時に、日本海中部地震で被災者になられたことから、防災士の資格を取得し災害の経験を地域のところで話をし、今、取り組まれている。その経験の中で話されていたのは、『災害が起きたら、迷わず早く逃げる』自助、共助、公助があるが、一番大事なのが、自助である。自分の命は、自分で守るのが大前提である。日頃の中でその辺を意識して取り組む必要があるのではないかと。

水害については、国土交通省のハザードマップが100%信用できるものなので、それをぜひ目を通して、浸水するところは把握していただければ良い。会長が課題と感じているのは、厚木市には福祉避難所がないが、個別の契約で協定施設がある。ただそこに繋がっていくのは、現実的に難しいのではないかと、後は、障がいのある方にも、防災訓練などのイベントに、声をかけたりするが、なかなか実際には、災害に限らず、日頃障がいのある方との交流の場がほとんどないので、防災訓練に参加すること自体も難しいのではないかと。避難行動要支援者名簿の中に個別支援計画というものがあるが、そういう状況なので、システム化されていてもなかなか拡充されることは、難しい。地域の方も障がいのある方と繋がるためには、どうしたら良いかと頭を悩ませていると話をしていただいた。

質疑応答・意見交換

- ・ 普段一緒にいるが、なかなか会長から、聞く機会がなかったので、改めて会長の話の聞く機会を設けていただけてありがとうございます。会長は、あの後、小鮎地区の避難所運営委員会でも講師で呼ばれて、講演を行ったみたいである。いろいろなところで講演を行っている様なので、もしお声掛けいただければ、お繋ぎできるかなと思っている。会長が話をしていた中で、自治会に入っていない方の繋がりが少ないという事だったので、その辺で地域で何か取り組んでいけたら良いのかなと話を聞いて感じた。(厚木市社会福祉協議会)
- ・ 会長が防災士と初めて聞いてびっくりした。障がいの利用者との繋がりをどうしたらいいか、私自身も40数年ボランティアで関わっているが、地域の中で障がいの方をどういうふうに受けていくかというのは非常に難しい。障がいの方にどういう風に視線を合せていか、心を開かせる方法等そういうものを努力していかないと心を開くまでかなりの時間を要する。私も一人の方と繋がるまで3年半かかった。その利用者は、57、58歳ぐらいの男性の方。我々ボランティアで月2回公園の中の掃除をする。グループホームから公園に来て、すぐにおはようと声をかけてくれる。そこまでになるには、健常者も他人事ではなく、自分の事とし

令和6年度第1回防災プロジェクト会議

て、障がい者の立場に立っていければ、繋がりが深まるのではないかと思います。会長の話を聞かせていただきたいと思います。会長にもよろしく言っていただきたいと思います。(防災関係者)

- ・ 鮎の会という手話のサークルがある。10月末に、ろう者に対して、ボランティア災害ネットワークが、災害に備えについて講演をする予定である。こういったことが少しずつ広まっていけばいいと思っている。何か手掛かりとか皆さんにお知らせできることがあれば、報告したいと思う。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)
- ・ 令和6年9月6日のタウンページの人物風土記にあつぎ災害ボランティアネットワークが掲載された。

Q.

あつぎ災害ボランティアネットワークは、手話をやるのか。(株)BISCUSS 生活介護 ajito)

A.

私は、しないが、相棒が手話サークルに入っている。そのサークルは、ろう者と健常者で組まれている。昨日サークルの方たちと打合せをしてきた。講演の間に、ろう者に伝える部分を入れて、プログラムを組む。健常者の防災訓練とはまた違う。通訳を介して行うのは、大変なのか。とりあえず行ってみる。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)

Q.

そのサークルがろう者と健常者で一緒に行っているなら、逆に言えば、居場所的な感じで最終的には、持っていきたいということなのか。先日、郷里の長岡のろう者の居場所のことが新聞に掲載されていた。居場所の提供者や健常者も行けて、楽しめるいい雰囲気づくりができるのではないか。(防災関係者)

A.

私も少しずつ手話を覚えようと思っている。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)

Q.

このところ地震があり、電車も止まる、風水害もあり、厚木市の方もかなり被害があったのではないか。どのくらいの被害があったのか。

A.

地震の被害は、無人の家の瓦が落ちた。幸い怪我人がなく被害が少なかった。台風の方は、土砂が少し家の中に流れて、大きなものが2件ほどあった。方角は玉川、七沢方面である。後、畑ののりが崩れたりした。トータルで今のところ把握しているのは、その後の修理や工事が必要なところが30件ほどある。主に土砂崩れである。(危機管理課)

- ・ 酒井のスポーツ広場に水が広がり、片付けが大変だったと聞いている。私の家の近くに鳶尾山に登る道がある。大きな鳥居があり、その鳥居が厚木地震と雨で土台がぐらついて、危険であるとハイカーが、報告に来た。鳶尾山の展望台の下に養徳寺が金毘羅さんの神社を再建した。厚木市の担当課は、地震の起きた後、点検をしていただきたい。(防災関係者)
- ・ こちらは、河川、道路、下水の関係の部署が常にパトロールをしている。台風の前で、畑ののりが崩れているとか、道路に穴が開いていると言われようにパトロールをしている。大きな事故に繋がらないように点検は大事である。(危機管理課)

(3) 相談支援プロジェクトとの合同研修会について (障がい福祉課)

7月24日に相談支援プロジェクトと防災プロジェクトで合同研修会を開催した。一つは、都市計画課の方から、あつぎ3Dマップの使い方についてご講義いただいた。3Dデジタルマップは、誰でも使うことが出来き、降水、浸水、土砂災害について視覚的に見ることができるツールである。相談支援事業所の方にも見ていただいたり、それを利用者や市民の方にも広めていただきたい。自分の住んでいるところが、危険なところかどうか、洪水が起きた時に、どこまで被害があるのか、視覚で見て、災害に備えていただくために利用してもらおうと思って、紹介していただいた。

もう一つは、あつぎ災害ボランティアネットワークに、災害に備えて、日々持ち歩いている物や災害時のトイレ事情や災害食、衛生面での話や指定避難所での体験談について教えていただいた。

意見交換

- ・3Dマップはもっと詳しくやってもらえたら良かった。(民生委員・児童委員)
- ⇒3Dマップの使い方は、資料に連絡先が載っているので、そこに連絡すると詳しく教えてもらえる。(障がい福祉課)
- ・研修時に教えていただいた非常食は、水で戻すカップ麺、また、切り干し大根は、昔の保存食のようで良かった。自分は、田舎生まれなので、もち草など乾燥させて食べたことがある。(民生委員・児童委員)
- ・非常食としてどんな物を食べたのか。
- ⇒ カップ麺を水で戻したものの。カレー味がおいしかった。1時間位かかる。水で戻すと臭いがしない。切り干し大根は、ツナとコーンを混ぜて、ツナの水分で大根を柔らかくする。じゃがりこは、水でふやかし、離乳食みたいな感じで、子どもでも、高齢者でも食べることが出来て誤嚥を防ぐことができる。ただ食べるのではなく、用途があるので、備蓄して欲しい。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)
- ・普段常に持ち歩いている物も説明していただいた。
- ⇒ 笛はバックにつけている。ライトは、居所を知らせるのにも使える。真っ暗なところを歩かなくてはいけない時に、足元が見える方が安心である。電車が止まってしまった時や停電してしまった時などライトが便利だなと思い、いつも持ち歩いている。モバイルバッテリーは、少し重いが常に持ち歩いている。スマホを使っているとバッテリーの量が減ってしまう。この間も厚木市で地震があった時に、電車が止まってしまった人がいて、周囲から大丈夫というメールやラインがあり、それだけで充電が無くなってしまう。重いが、モバイルバッテリーを持ち歩くといいのかなあと思っている。あと、女性用の安全靴や鉄板の入っている中敷きがあるので、踏み抜け防止になる。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)

Q.

あつぎ災害ボランティアネットワークの担当の方は、大きな地震にあったことはあるのか。(防災関係者)

A. 大きな地震は、東日本大震災位である。防災センターに行ったりする。防災の資格を取るためには、地震の体験をする。東日本大震災以外にも阪神淡路地震、関東大震災の揺れ方を再現する体験をした。(あつぎ災害ボランティアネットワーク)

・今年3月に、自衛隊を退職し、危機管理課の方に防災マネージャーとして来させていただいた。厚木市の皆さんに何かしらのお力になればと思っている。厚木市の様に、災害の少ない地域

は、市民でどうしても『私は大丈夫。ここは大丈夫』という心理で平静を保とうとする。市で用意している3Dマップを見てこういった様相になるのか、地震体験車でこういったことがあるのかと、イメージを沸かせていただく事が意識の中で大きいかなと思う。

2つ目は、皆さんが言っている人との繋がりである。具体的には、大きな計画とか、訓練と言う中において、誰が誰にというところが一番重要なかなと思う。公助と呼ばれる市が、市の職員が1,500名しかいない中。22万人の市民をどう助けるのかというところで限界がある。

そうした時に、自助で誰がどこに、どこの部署がどこに、を明確にしつつ、連携をしていけば、避難所がだめなら、あちらの避難所と選択肢が広がる。それでもだめなら、公助である市に言っていただければ、団体としてなら支援しやすい。先日の台風の時も、個人個人で動くとう電話が鳴りすぎて、電話がパンクしてしまい、本来行わなければならない調整ができないというのが実態であった。避難所の開設調整もなかなかできない。自助なのか、公助なのかと意識的に考えていただいて、その中で、地域の連携の中で、一緒に行く事が防災対策に少しずつ繋がっていくのではないかなと思う。東日本から九州まで20数回被災地に行ったが、国とか、行政とか限界がある。地域の方々と周りの中でどうやって繋がっていくか、足りないところを補っていき、こうした方が良く今から広がっていき、厚木市全体で、何かあった時に動けるのではないかなと思う。

(4) 神奈川工科大学共催による研修会の実施について (障がい福祉課)

7月11日に研修会を実施した。出席者は、計23名である。内訳は、支援者13名内事務局5名、当事者が9名、当事者の家族が1名だった、当日は、天候に恵まれ、神奈川工科大学内外を見学することができた。神奈川工科大学で新たに建設されたKAITTOWNの会議室において、実際に防災対策チェックリストの作成を行った。

意見交換

- ・災害が起きた時に避難所として開設すると伺い、あの地域に住んでいる人は、利用出来て良い。大学の施設の作りが優しい感じで使いやすそうで素晴らしいと思った。(民生委員・児童委員)

Q.

神奈川工科大学は、市の施設ではないが、実際に災害が起きた際には、市の施設にたどりつけない方とか、神奈川工科大学が近くて一番安全だという方、そういった方々が選択肢の一つという位置づけになっている。実際避難所として、避難されるにあたり、避難しやすいなという感覚はあったのか。(障がい福祉課)

A.

KAIT 広場が寝ころんで、瞑想できる感じが良かった。機会があれば、また見学したいと思った。(民生委員・児童委員)

- ・ 神奈川工科大学の研修は、共催でお願いしているが、こちらの目指すところは、自分の事は自分で守る。災害になる前に自分で出来る事は何かというので、防災対策チェックリストを皆さんに作成していただくというのが主の目的である。令和3年から事業所単位で参加者を募って行っている企画になる。(障がい福祉課)

(5) 防災対策チェックリストの改訂について (障がい福祉課)

防災対策チェックリストは、改訂を繰り返した。何度か修正版を出させてもらい、お手元にあるのが、最終版である。令和5年度の3回目の会議の時に、話に出た『チェック3のあなたの安否を確認してくる人はどなたでしょう。』のところで優先順位をつけた方が良くというこ

とで優先順位をつけたものになっている。2番目が、『チェック2のあなたは、災害が起きた時どこに避難しますか。』のところで付き添ってくれる人はいますかとし、チェック項目を追加した。3番目が、『チェック2避難場所でお願ひしたいこと』というところで、下から2番目の苦手なことがありますかの横に具体的に記入する項目を追加し、その下にその他の項目を追加した。4番目が『チェック1のアレルギーがありますか。』□ない。□あるとし、その他気を付けてもらいたいこと（ ）として修正した。

資料としては、最新のものしかつけていないが、前年度、皆さんが討論した内容は、厚木市のホームページに会議録として掲載されているので、よろしければ、ご確認していただきたい。同様に携帯版も修正している。

危機管理の地区班の方に説明を出させてもらっている。これは、継続的に市の方で事あるごとに、危機管理のご協力をいただきながら、市の職員にも広めていこうと思っている。障がい者が防災対策チェックリストを避難所の受付に持っていくと配慮していただけるように市の担当にも協力していただけるように進めていきたいと思っている。

意見交換

- ・防災対策チェックリストは、皆持っている。障がい者手帳と一緒にリュックに入れている。本人と事業所で持っている。薬は大事。精神薬は、替えがないので、一週間分くらい、皆持っている。(レザミ工芸)
- ⇒簡易版でも、普通版でもどちらを使われても構わない。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ⇒防災対策チェックリストの啓発用のチラシを作成した。ご意見をいただきたい。気付く点があれば、9月末までに、ゆいはあとにご連絡をいただきたい。意見がないようなら、承認いただいたということで、協議会を通してホームページで、変更させてもらうようにする。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)

(6) 能登半島地震被災地への応援 ((社福) すぎな会 すぎな会生活ホーム)

神奈川県知的障害施設団体連合がある。そこで被災者の応援派遣を行おうと考え、団体に登録している施設に打診があり、5月12日から8月3日まで12グループ、1週間に1グループ行く形を取った。1グループ4名。2名ずつ分かれた。1つは、避難所の聞き取りを行った。青年海外協力隊が中心でそこにこちらが手伝いに入る支援だった。もう一つは、能登町に社会福祉法人湧子園の日本海プラザという障がい者施設があり、そこにボランティアで入って欲しいと言われた。私が行ったのは、第3陣である。施設の方に行かせてもらった。まだ、初期の段階で、いろいろなことが手探りだった。施設は、少しヒビが入っていた状態で、利用者の方は、それほど被害に遭わなかったが、職員の方が被害に遭われた方が多かった。怪我ではなく、全損、半損になっている家が多く、違う場所に避難すると同時に退職という形になってしまっている状況で、十数名の方が一気に退職されたという状態であった。そこに対しての支援だった。その前からも何陣が行っているし、他のボランティアも入っていたが、職員の方も駐車場で生活していた。屋根の修理をお願いしたいけれど中々業者が来ないので、家に入れないとか、休みが取れず、罹災証明証を出しに行けない。ボランティアが入る事で休みがもらえて、罹災証明証を出しに行けたと話聞いている。施設自体は、変わりはないが、食事は、乾パンは、たくさん届くが、固いので、食べ方に苦慮している。スープや味噌汁に入って出てきた。地震が起きて、5か月くらい経っていたが、たぶん最初に比べれば、これでも良くなったのかと思う。この施設でも、就労継続支援A型、B型、生活介護などの色々な種類の事業を行っている。生活介護は、通常の活動をしている。A型では、生ビールを作っていて、徐々に回復してきている。現在は、販売を再開している

と聞いている。

写真にあるのが、能登町から珠洲市にかけてである。道路がかなり悪い状態で、珠洲市は、閑散としていて、人も居ない。車も走っていない。ゴーストタウンの様な感じだった。誰とも会わなかった。能登町は、日本海クラブが高台にあり、その下に白丸地区がある。津波の被害が結構あり、火事も起きている状況だった。火事の跡地もまだキナ臭かった。ここまで支援の手が伸びていない。私たちも泊まりながら1週間、輪島の和倉温泉の能登楽という宿を起点に動いていた。とても閑散としていて、営業はできないが、ボランティアの方の受け入れる位だったらしいことであつた。地域の聞き取りや避難所に行った方は、輪島とホテルを行き来していたが、道が危ないということで規制がかかるので、行っている時間が短かったと言う。また、避難所では、あまり快く受け入れてくれていない方も結構いたと言う事がある。『また、来たのか。(他に警察や他の団体等が来て) 一日何回目だよ』と言うことだったり、あからさまに扉をバンと閉めたりということもあつた。『あんたたちは、帰れば普通の生活に戻れるけれど』と言われた。ぶつけ場所のない気持ちなのかなと思う。

施設よりも避難所に入った人たちの方が、精神的には、大変だったかなと思う。5か月経過しても、5ヶ月しか経過していないのか。ここまで何も進んでいないのは、どうなのかなと現場に行つて思った。段々といろいろなものが進み、私たちが行つた時よりも、対応が良くなってきたと聞いている。

被災された皆さん、立派な大きな家に住んでいる人たちである。団地の二部屋あるかないかの所に移りそこで生活するストレスがあるんだろうなと感じた。私たちにできることは何かと感じた。人を助けなければいけないだろうが、どここの部分を助ければ良いのか。業者が全然入っていなかったの、進んでいないのだと感じた。

ボランティアが沢山入っていた。ホテル界限は、キッチンカーが出ていて、活性化していた。日帰り温泉とか早くからやっていた。

ボランティアは、建築関係か男性が20名とかいっしょに来ていた。調整する方が大変だろうなと思った。5ヶ月くらい経っていたので、仮設住宅に皆入っていた。

(7) 障がい者が地域と繋がり、地域の防災訓練に参加しやすくなる取り組みについて

(障がい福祉課)

市役所の職員約1,500人が約22万人の市民の方々を助けるのは難しいので、地域の方が、災害が起きる前に顔合わせをして繋がりを作っておいた方が良いのではないかと。地域ごとに、障がいの方との繋がりを作って行きたい。皆さん、障がい者が地域と繋がるのにどうしたらいいのか。防災訓練の時などに、避難行動要支援者名簿に記載している方に携わっている障がい者相談支援センターの方と地域の方と顔合わせをしていくのは、どうだろう。

意見交換

- ・そういった顔合わせは必要である。たまに高齢者の関係で地域を周る。そういったことが10月20日にある。(民生委員・児童委員)
- ・高齢者の方は、(敬老の日など)何かを持っていくということで繋がりやすいが、障がいの方は、何もなくて挨拶に行くのは難しいのでしょうか。(障がい福祉課)
- ・避難行動要支援者名簿の個別支援計画を作成するのが、自治会や民生委員だと思うが、そこで繋がった方は、何人かいるとこちらは、考えて良いのか。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
- ・そういう利用者が、災害にあった時にどうするかであるが、実際に避難所運営委員会が47箇所ある。その中の一環で荻野中学校に避難所運営委員会があるが、そこは、単位自治会5地区

でなっている。委員は、自治会長、民生委員、防災推進委員、行政の職員が二人、24、25名位で構成されている。避難所運営委員会は、災害が起きた時に、教室が使えるのか、体育館に何名位避難できるか、医薬品はどこにあるのか、防災倉庫の中はどうなっているのかと年間数回、訓練する。危機管理課に実績報告をしている。

但し、障がい者の利用者は、訓練に入っていない。私のいる鳶尾は、全体でグループホームが8箇所くらいあるので、防災訓練の時に、世話人に声掛けして、出てもらう。グループホームは自治会に入会しているので、議事録の回覧で情報共有をしている。現地で防災訓練を行えば、利用者、職員が参加できる。そういう体制は常に出来ている。今一番、大事な事は、防災訓練である。近年は、南海トラフや厚木の地震震度5弱、米が無い。水がないという情報で、実際大変である。それ以上に災害は瞬時にやってくる。その情報を末端の人たちにどういう風に情報共有をするか、やはり最終的には、地域の繋がりをどういう風に捉えるか非常に大事なことである。行政の職員が荻野まで来るのに6km、7kmある。市役所の職員だって自分のことで精一杯である。命や財産を守るために、常日頃から繋がりを持つ。お祭り、餅つき、いろいろな行事を企画をして、老若男女が顔見知りになって、防災意識を高めることをしていかなないと助かる命も助からないと思っている。(防災関係者)

- ・ 6、7年前に、鳶尾4丁目地区で防災訓練を行った。400人、500人規模で1年がかりで準備をして本番を迎えた。あれを経験しながら、命の大事さや地域の繋がりと情報共有を頭の片隅置き、しっかりと防災知識を身に付けることを積極的に高めていく必要がある。次の年に、報告会を行い、顔合わせを行ったが、あれから大がかりなことは出来ていない。(防災関係者)
 - ・ 違う地区で大掛かりなことは出来ないが、顔併せて程度のことを行っただろう。それが良ければ、地区を変えてやっていくのはどうだろう。もし良ければ、民生委員の依知地区はどうだろう。(障がい福祉課)
 - ・ 公民館を中心にしたフェスタに出てもらうと繋がりができる。月1回の定例会も公民館で行っている。自治会長に相談しなければいけない。いい方向で相談しながら、行っていかなければならない。(民生委員・児童委員)
 - ・ 今行っている社協の取り組みの居場所作りに、障がいのある人もない人も参加して、そこから繋がりを持ち、防災訓練に参加できると良い。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)
 - ・ グループホームのある地域だと、グループホームに声をかけることで、利用者が職員と参加できる。((社福)すぎな会 すぎな会生活ホーム)
 - ・ フェスタは、公民館祭りのこと。どこの地区でも行っている。グループホームも地域の中で暮らすので、地域の理解と接点をどう持つかである。8月24日行われた夏祭りが非常に良かった。荻野中学校の吹奏楽部の生徒にオープニングで演奏してもらった。マツケンサンバの演奏に利用者の笑顔がとても良かった。楽しい雰囲気を作り上げたので、地域に入りやすかった。
- ⇒ 本日、地域と繋がる取り組みの参考になるような意見をたくさんいただいた。次回も来年度に向けての取り組みを検討していく。(厚木市障がい者基幹相談支援センター)

議事進行 ((社福)すぎな会 すぎな会生活ホーム) ⇒事務局 (厚木市障がい者基幹相談支援センター)

(8) その他

- ・ タウンページの防災グッズ情報提供 (厚木市障がい者基幹相談支援センター)

以 上